

IMS Japan賞について

日本IMS協会運営委員長
IMS JAPAN賞選考委員長

山田 恒夫

講評

IMS Japan賞選考委員会

IMS Japan 賞選考委員会

- ✓ 山田恒夫（放送大学）
- ✓ 常盤祐司（法政大学）
- ✓ Rob Abel（1EdTech Consortium、CEO）

本年度審査の概要

- エントリーは**件、うち13件から一次審査の応募をいただいた。例年に比べ、応募総数は少なかった（昨年度エントリー67件、一次審査応募15件）。
- 今回も2段階の審査を行った。まず、日本語による応募資料をもとに、日本人審査委員2名による1次審査を実施した（9月12日、オンライン）。
- 1次審査を通過した作品については、英語による追加説明資料（The 1EdTech Consortiumの Learning Impact Award（LIA）の1次予選として、LIA のApplication Formに則った応募書類、概要説明リーフレットおよび説明ビデオ）を提出
- 海外委員（Rob Abel、IMS Global Learning Consortium CEO）を加えた3名が英語による2次審査を行った（10月11日、オンライン）。

各賞の評価基準

最優秀賞	<p>1EdTech技術標準など国際技術標準を採用し、複数のステークホルダーの参加する教育デジタルエコシステムを構築し、それによって教育や学習のイノベーション（いわゆる教育DX）を実現した、あるいはその実現を企図した作品や実践。</p> <ul style="list-style-type: none">・グローバルな観点で、優れた実践（Good Practices）として共有できるもの・デジタルエコシステムによる教育DXの実現をめざしているもの・複数のベンダー、ステークホルダー間でのデータ連携を目的とするもの
優秀賞	<p>1EdTech技術標準など国際技術標準を採用し、高度なデータ連携によって、新たなサービスや実践を実現した、あるいはその実現を企図した作品や実践。</p> <ul style="list-style-type: none">・グローバルな観点で、優れた実践（Good Practices）に発展する可能性を期待できるもの・IMS技術標準によりデータ連携を図り、相互運用性を実現するもの
特別賞 奨励賞	<p>1EdTech技術標準の採用に至ってはいないが、単体として、我が国の教育や学習のイノベーションの実現に貢献した、あるいは貢献する可能性のある独創的な作品や実践。1つの製品（アプリ、サービス、コンテンツ）にとどまるが、今後のイノベーションを期待させるもの</p> <p>特別賞： 1EdTech技術標準の採用によってさらなる発展が期待できるかという観点で特に可能性の高いもの</p>

最優秀賞

※LIA 1次予選免除 ※LIA 本選渡航費補助

応募者	株式会社 LearnWiz
製品・実践	学習者の主体性を引き出す意見集約ツール「LearnWiz One」 LearnWiz One -Completely new opinion-gathering platform that motivates and aids in online learning
講評	<ul style="list-style-type: none">・単にCOVID-19パンデミックで生じた制約をオンライン化で解決するということではなく、アクティブラーニングの知見と集合知の知見を活かして、新たな学びを実現しようとする挑戦性や革新性、そしてパッションが高く評価された。・今後、学習管理システムや学習e-ポータルから容易にアクセスできるよう、LTI連携機能を実装すること、学習活動を記録したり、成果をオープンバッジとして提供し、他のプラットフォームとの連携も視野に入れること、作品が、ツール間の相互運用性が担保されたデジタルエコシステムの一端として貢献できる可能性について明確な展望を有することも評価された。・委員の評価が最優秀賞として一致した作品。

優秀賞

※LIA 1次予選免除

応募者	九州大学 イメージ・メディア理解研究室
製品・実践	OpenLA：教育データ分析のためのオープンソースライブラリ OpenLA: Open Source Library for Educational Data Analysis
講評	<ul style="list-style-type: none">・さまざまな学習履歴データを活用し大学DXを推進する視点は明確であり、その際、コードライブラリなどオープンソースライブラリを提供し、利用者に柔軟で信頼性の高い教育データ分析環境を提供しようとする点が高く評価された。・2020年6月の一般公開後、申請時点までに約2万件のダウンロードや、国内で開催された教育データ分析のコンテストや、国際会議でのデータチャレンジワークショップでも活用されるなど、教育データ利活用の促進にも広く貢献している。・一方、学習履歴データの技術標準は複数存在している状況であり、今後研究段階、実用・普及段階でどのような方策をとられるべきか、展望が求められる。

優秀賞

※LIA 1次予選免除

応募者	京都教育大学外国人の子どもの教育を考える会
製品・実践	ウクライナ語版算数・数学動画制作と公開による教育支援プロジェクト M. Math-System (Multilingual Math video content System)
講評	<ul style="list-style-type: none">・2016年より、全国約5万人の日本語指導が必要な外国人の子どもに対して、ポルトガル語、中国語、英語、ベトナム語、韓国語、日本語に多言語対応版算数・数学動画コンテンツを制作し、京都教育大学YouTubeサイトとホームページで公開することで、母語での学習を支援してきた取り組みである。・技術標準ということでは特段記載はなかったが、その社会的な意義や、将来のDX化の可能性から、国際的通用性の高い取り組みとして評価された。

奨励賞

応募者	一般社団法人プロティアン・キャリア協会
製品・実践	プロティアン・キャリアeラーニング（基礎編） Protean e-portal
講評	<ul style="list-style-type: none">・キャリア理論をベースにしたeラーニングシステムであり、『自立型キャリア』という概念から、未来洞察を実施した上で自身のキャリア戦略の実践手段と目標設定を実施する。・現在は、ワークシート主体の構成であるが、LMSへの実装、さらに既存のオープンバッジシステムや将来的にAIとの連携を企図する点が評価された。

特別賞

応募者	広島市企画総務局行政経営部情報政策課
製品・実践	広島市・広島広域都市圏職員を対象としたDX人材育成eラーニング教材の作成 Just one successful DX skill development program for local government workers.
講評	<ul style="list-style-type: none">・ 地方自治体という組織において、状況に応じたDX人材育成eラーニング教材を形成的評価を基に開発した点が評価された。・ Moodleをプラットフォームに使用しているが、今後さまざまなEdTech技術標準を活用することで、さまざまなデータ連携を期待できる。・ 日本語による記述に比べ、英語の記述が単純化されていたのが残念である。

特別賞

応募者	株式会社プロシーズ
製品・実践	保育士等キャリアアップ研修CareRaku Improving the quality of childcare through a new training style using ICT 【CareRaku】
講評	<ul style="list-style-type: none">・ 保育士等キャリアアップ研修を、関係省庁、専門家・コミュニティなど多様なステークホルダーの連携をもとに、ICTを活用しオンライン化を図ったことが高く評価された。・ 日本語による記述に比べ、英語の記述が単純化されているのが残念である。また、英語によるリーフレットの提出がなく、システムの特長が把握しづらかったのも残念な点である。